

熊本県立大学

国文研究

第 六 十 号

平成二十七年六月

目 次

- 薩摩版・日向版『聚分韻略』の加筆訓をめぐって
—かまきりの異称アマキビを中心に— 米 谷 隆 史…… 1
- 玉鬘の和歌と人物像
—知性と零落の物語展開— 古 川 瑞 紀…… 19
- 末摘花の役割と蓬生巻の意義 片 山 理 恵
久留須 倫 子…… 33
- 「くまモン」のアクセントに関する調査報告 崔 文 姫…… 74(25)
- 1980年代におけるウイスキー銘柄名の表記の
変遷について 小 川 晋 史…… 98(1)

編輯後記

第六十号をお届けします。特に銘打ちはしませんでした。が、区切りの本号には教員三名、院生・学生三名（一つは二名共著のため、本数は二本）から原稿を寄せていただき、相応に充実の誌面構成となったかと思えます。特に教員陣のうち、小川先生・崔先生は共に昨年度より本学科に赴任された新鮮な顔ぶれです。お二人から揃って御寄稿いただけただけことを大変嬉しく思います。勿論、教授昇任後初めて本誌にお書きいただいた米谷先生にも大変感謝しております。

院生の古川さん、そして学部生の片山さん・久留須さんは、いずれも本学の中井先生のご指導の下で研究・学習中であり、今回は共に「源氏物語」に関する論稿を寄せてくれました。

今号には学部卒業生の卒業論文を元にした稿が載せられなかったのやや寂しい観がありますが、その穴を補って余りある働きぶりかと思えます。

前号後記にも記したことです。が、原稿がなければ雑誌を出すことはできません。次号に向け、引き続き積極的な投稿・執筆態度を期待しています。

「国文研究」 第六十号

印刷 平成二十七年六月二十五日

発行 平成二十七年六月三十日

編集・発行

熊本県立大学日本語日本文学会

熊本市東区月出三丁目一番一〇〇号

印刷 (株)啓文社

☎〇九六一三六八一八二〇〇